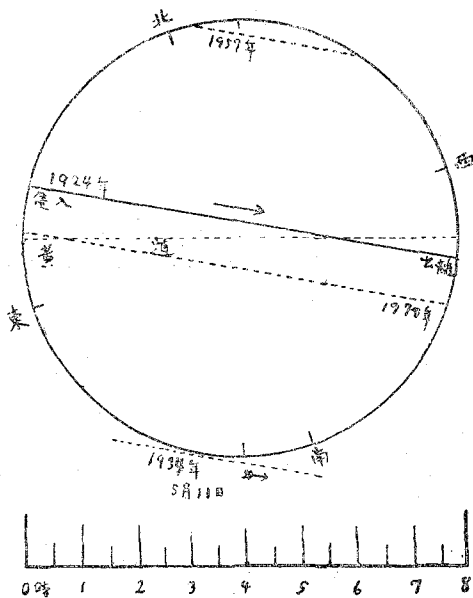


水星日面經過

X・Y・生

本年五月八日に水星の太陽面經過が起る。侵入 (Ingress) は大西洋、北アメリカ、南アメリカの北部及西部、太平洋、東部アジア及東部濠洲に於いて遍く觀望し得べく、出離 (egress) は北アメリカの極北東部、太平洋の中央並に西方部アジア、



1900-1900間の水星日面經過圖

濠洲、印度洋、ヨーロッパ及アフリカの極北西部を除く地方に於いて一般に觀望し得べし。

今世紀間には十二回の經過と二回の接觸とが起り、その中四回は五月の月に起るもので上圖に示せるが如し。本年の經過は七時五十分で十二回ある中で最も長時間のものである。そして水星は殆ど太陽面の中央を經過するが故に、それは極大時間よりも極少し許り短いに過ぎない。一九七〇年には又著しくて、其の經過時間は七時四十五分である。一九三七年の五月十一日には水星は内合に際して太陽に非常に接近して通過し、爲めに殆ど彩球 (太陽を包める赤氣層) 上に投影されて見える。而して太陽の端に對する最も近い接近は弧の一秒より少し大なるに過ぎない。

今左に本年の水星日面經過の諸要素を記せば

赤經に於ける合のグリニチ平均時五月七日三時三十分四七・〇秒	二時五八分五一・三五秒
太陽及水星の赤經	北へ九・七〇秒及南五・二八秒
毎時の運動	北へ一六度五八分九・四秒
太陽の赤緯	北へ〇分四一・〇秒
毎時の運動	北へ一六度五九分四四・四秒
水星の赤緯	南へ一分七・七秒
毎時の運動	八・七二秒
太陽赤道の水平視差	一五分五〇五二秒
太陽の眞視半徑	一五・七八秒
水星赤道の水平視差	五・九九秒
水星の眞視半徑	

次に我國に於ける各地の經過の事情は次の如し。但し、本曆より同好會員の比較的多く居住せる地點をこりたるなり。

五月八日水星日面經過の各地方の事情

地名	初外		内		兩中心ノ最近		終内		外	
	時刻	方面	時刻	方向	時刻	距離	時刻	方向	時刻	方向
臺北	午前五時四十分	二四度	午前五時四十分	二四度	午後二時三十分	二八度	午後二時三十分	二八度	午後二時三十分	二八度
京城	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度
那覇	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度
長崎	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度
京都	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度
東京	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度
札幌	午前六時四十七分	二三度	午前六時四十七分	二三度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度	午後二時三十七分	二七度

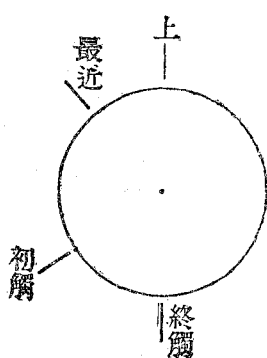
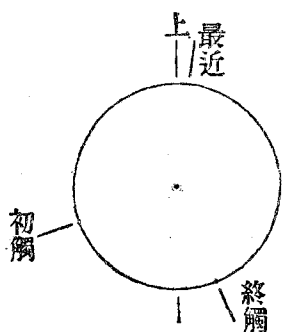
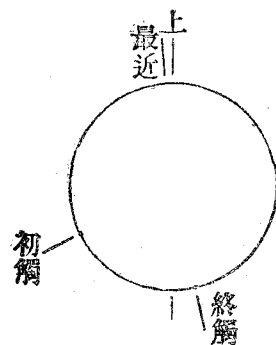
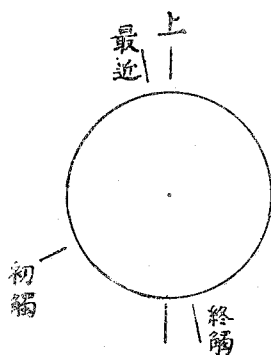
京都

東京

札幌

臺北

(10)



右のうち方向は上より左廻りに測り、零度より三百六十度に至る。又兩中心の最近ニは地球を中心として見たる時に太陽及び水星の兩中心が最も近く見える時間、方向及び距離を示めせるものなり。

終りに水星の經過を観測するには小望遠鏡(三吋以上)を用ひるを必要とする。勿論接眼鏡には暗黒色又は其の他の色のサン・グラスを用るなければならぬ。或は投影法を用るるもよし。